

## 21世紀に 変わる大学

女子栄養大学  
染谷忠彦・常任理事

今から80年近く前に、「食」による予防医学の重要性を唱える医学博士・香川綾によって創設された女子栄養大学。世界でも類を見ない「栄養の専門大学」として、その個性は輝きを放っている。学園常任理事の染谷忠彦氏に話を聞いた。

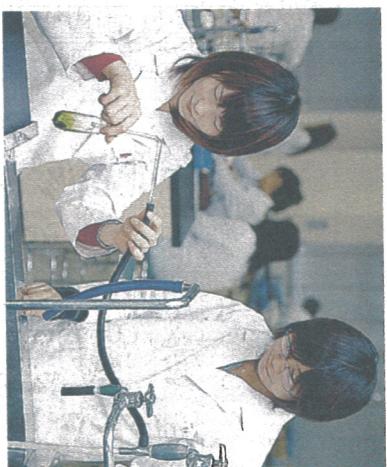
—女子大学として教育を行う意義とは？

「私立大学は、大学の成り立ちや歴史、建学の精神を大切にすべきだと思います。建学の精神を、いかに現在の教育・研究に反映するかが、それぞれの大學生の存在意義につながります。本学の場合、『食による人間の健康の維持・改善』という建学の精神に加え、『女子に高等教育

育の場を』という創設者の思いがあります。現代でも、まだまだ女性が十分に活躍できる場は限られています。高い専門性を身につけられる女子教育の場として社会から評価されることは、優秀な女性を正当に世に送り出すという意味でわめて重要なのです」

—教育の特色は？

「実習により、現場で学ぶ機会が多いのが最大の特長といえます。正規のカリキュラムは他大学に比較して1.5～2倍あります。実習は指定された時間以外でも空いた時間を使って、近所の小学校へ行き先生方の手伝いをしたり、と、積極的に現場に出てい



即戦力育成へ、食に関する実験にも余念がない

## 産学連携で社会貢献を

く学生が多い。また、単科大学の強みでもあるのですが、施設・設備が他の総合大学に比べて非常に充実しています。さらに、実習の場にもなっていますが、実習の場にもなっていますが、駒込キャンパスに『栄養クーリニック』を設置。正規の医療機関として、一般の方の検査や相談を行うとともに、食と栄養

に関する講座も開いています」

—社会からどのように評価されているか

「本学では、看護栄養士の養成を柱にしていますが、養護教育論一種免許や臨床検査技師の（受験）資格も取得可能です。『栄養の知識を持った各資格取得者』は、即戦力として学校現

でなく、産学連携などによって、これからさらなる社会貢献を進めていきたいと考えています。本学に限らず、企業には、もっと大学のことを知ってもらいたい、というのが私の持論です。各大学がどのような教育を行っているか、先入観にとらわれずに見てもいい、社会をよくするために互いに協力していくことを願っています」